

第22回 多摩の歴史講座 終了報告

本紙8月号(No.059)で募集した『第22回 多摩の歴史講座』(たましん地域文化財団・東京市町村自治調査会共催)は、平成30年9月21日から11月16日にかけて隔週金曜日に、全5回の講座を開催し、30歳代から80歳代の90名を超える受講生の皆様にご参加いただきました。

この講座は、歴史と文化の宝庫である多摩地域にスポットをあてた連続講座で、本年度は、「多摩の民俗芸能にふれる」をテーマとして開催しました。

第1講 (9月21日)

「神楽がきた道～^{だいたい}太々神楽と里神楽を中心に～」では、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長の久保田 裕道氏から、民俗芸能の分類、神楽の起源や伝承、全国各地への広まりなどについて解説いただき、それが多摩の歌舞伎、お囃子、地芝居とも様々な関係があることをお話いただきました。第2講以降の芸能を知るうえでのベースとなる講義でした。



▲第1講の講座風景

第2講 (10月5日)

「若松派誕生150年～説経節の継承と創造～」では、説経節若松派三代目家元の若松 若太夫氏から、説経節の成り立ちや歴史、若松派誕生のエピソードとその系譜などについて解説いただき、後半部分では、「さんせう太夫一代記-鳴子唄・親子対面段-」を実演していただきました。



▲若松家元による説経節の実演

第3講 (10月19日)

「古典の素晴らしさ、未来を切り開く新作の楽しさを次世代に～八王子車人形～」では、八王子車人形西川古柳座の稽古場で見学会を行い、五代目家元の西川 古柳氏から、全国の人形芝居の紹介と車人形の歴史や特性、その機構と動きについて操作体験を交え解説いただくとともに、「東海道中膝栗毛 卵塔場の段」、「日高川入相花王」、フラメンコを舞う新車人形などを実演していただきました。



▲西川家元による車人形の実演

第4講 (11月2日)

「八王子・小津の獅子舞～天然理心流の流れをくむ太刀遣い～」では、小津獅子舞太刀保存会会長の山下 正男氏から、獅子舞のルーツや小津獅子舞の由来・構成・演目、「太刀遣い」の役割や天然理心流との関係などについて、太刀遣いの実演や獅子舞の映像鑑賞を交えながら解説していただきました。



▲八王子・小津の獅子頭

第5講 (11月16日)

「庶民と共に生きる歌舞伎～郷土芸能としての歌舞伎を伝える～」では、秋川歌舞伎保存会あきる野座座長の白檮山 誠氏から、奉納芸として誕生した地芝居「二宮の芝居」の挫折とそれを乗り越えて復活した秋川子供歌舞伎、そして現在の秋川歌舞伎の活動状況や特色など、農村歌舞伎がたどってきた歴史を解説いただいた後、受講生とともに義太夫の一節を語っていただきました。



▲太鼓の実演と鉦などの小道具

今回の歴史講座でご講義いただきました講師の方々、参加されました受講生の皆様に厚くお礼申し上げます。次回も皆様の興味・関心を深めることができる講座を企画しますのでご期待ください。

TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ

第116回 やってみませんかマジック(手品)

【講師】^{たかはし まさき}高橋 正樹 氏

(公社)日本奇術協会賛助会員。都内各所で『手品の学校』を主宰し、主にシニアを対象に、マジックの指導歴25年。多くの生徒が、マジックを生かして、各種施設訪問等のボランティアで活躍している。内田康夫ミステリー文学賞・大賞を受賞したミステリー作家でもある。

【内容】マジックは夢とロマン、優しさと遊び心に満ちた、たいへん素敵な趣味・芸能です。見ているだけでも楽しいですが、演じる側に回れば、さらに愉快なものです。

今回は初心者を対象に、トランプ・お札・紙・ひも等を使った、易しくできて効果的なマジックをお教えます。器用・不器用などといったことは全く関係なく、その場で覚えて数回練習すれば、すぐにでも人をびっくりさせられるものばかりです。

覚えたその日から新たな楽しみ・喜びの広がるマジックの世界。あなたも魔法世界の住人になってみませんか。



日 時 平成31年1月20日(日) 14:00~16:00

受講料 無料

場 所 多摩交流センター会議室 京王線府中駅北口
府中駅北第2庁舎6F(府中市寿町1-5-1)

問合せ先 多摩交流センター内 TAMA市民塾
TEL 042-335-0111

申込方法 当日会場にお越しください。先着50名までとさせていただきます。

「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



編集後記

- あけましておめでとうございます。
「平成」最後のお正月となりました。
- 新年早々ですが、まず、油断大敵ということで注意喚起の話の一つしたいと思います。
亥年は災害が多いと言われており、関東大震災(1923年)、伊勢湾台風(1959年)、阪神淡路大震災(1995年)などが発生した年回りです。古くは江戸時代に「亥(い)の大変」と呼ばれた宝永地震(1707年)や、地震の49日後に噴火し、「宝永火口」ができた富士山宝永大噴火もありました。
科学的根拠は別として、年の始めに気を引き締めて、不測の事態に備える心構えは大切です。
- さて、今年4月には、全国の地方行政の流れや方向性を決める統一地方選挙があり、多摩・島しょの市町村では7市町村の長と24市町村の議会議員選挙が行われます。統一地方選挙以外にも、年内に8つの市町村長と3つの市町議会議員の選挙も予定されています。7月には参議院議員選挙も控えています。
5月には新天皇が即位し新元号となり、10月に即位を内外に宣言する「即位礼正殿の儀(そくいれいせいでのぎ)」が執り行われ、いよいよ新しい時代が

始まります。
9月にはラグビーワールドカップが調布市の東京(味の素)スタジアムで開幕となります。また、東京2020オリンピック・パラリンピックも1年後に迫り、これらの世界的スポーツイベントの成功に向けて、多摩・島しょの市町村においても取組を加速させていくことになりそうです。11月には新国立競技場も竣工の予定で、一層、機運が盛り上がると思われれます。

また、10月からの消費税率アップ後の景気落ち込みへの経済対策として、全国で実施される経済対策について、市町村における取組も必要になりそうです。

○ これ以外にも、市民や社会への影響が大きい事柄としては、幼児教育・保育の無償化に向けた動きや、スマホやクレジットカード等によるキャッシュレス決済の進展、EV(電気)自動車の普及、4K・8K放送の普及拡大など様々な変化が目白押しの状況となっています。

予定されていることだけでも忙しく、あっという間の1年になりそうです。

(M.N)

